



立つべき位置

井村 裕治 福井シード(株) 代表取締役

【登録番号 第012号】——これが技術的な助言や指導等を行うことの出来る施設園芸の専門家「施設園芸技術指導士」としての、私の登録番号です。受験に関しては、第1回目の資格認定試験で傾向と対策も無く、出題範囲が広く、かなりのプレッシャーがありましたが、お陰様で何とか合格できました。合格者15名の内の一人として、今年の2月に登録していただきました。この資格は合格することに意義があるわけではなく、合格後の活動にこそ意義があり、その事を期待されて与えられている資格だと思います。第1回の合格者の所属や役職は様々ですが、其々が其々の立つべき位置に立って活動していく事が重要であると考えています。

私の立つべき位置はどこかと考えたときに、種苗業に携わっている者としては、品目、品種を活かすための園芸施設、園芸技術について取り組み、提案して参りたいと考えました。植物工場展(GPEC)をご覧になった方は感じられたと思いますが、素晴らしい技術や、それを実現する機器・資材が毎年発表されています。そして、どんどん取り入れられていると思います。しかしながら、品目ごと、さらには品種ごとに、園芸施設があれば施設ごとに、広く普及するには時間がかかります。そして、品目、品種ごとに必要な施設園芸技術・資材をコーディネートして提案することは、さらに時間を必要とすると思います。こ

の時間的なギャップを少しでも埋める事が出来る位置に私が立つべき位置があるのではないかと考えています。

私は別の立場として農業法人の代表をしています。農業法人経営を考えた場合の新しい技術や資材は、生産量の増加、管理コストの削減、品質の向上等を期待できるプラスの部分があります。反面として導入の為のコスト増、技術や資材の変更に伴う失敗等のリスクを伴います。決して思いつきで取り組めるものではありません。このような時に、自分の思いと寄り添い、共に考えて提案してもらえ人が居ればどれだけ心強いかと実感しています。私は、出来ればこの場所にも立ちたいと思います。能力を比較されると足りないと思われるかもしれません。しかし、農家・行政・メーカー其々の方の話をよく聞き、新しい技術や資材に対する情報収集を怠ることなく続けていくこと、すぐに提案できる体制をとること、農業に対する思いや農家に対する思いを忘れないことを基本とすれば、施設園芸技術指導士としての役割を果たしているのではないかと考えています。「言うは易し、行うは難し」を地で行くことになると思いますが、私の立ち位置は、この二つのフィールドに在ると考えて、色々な方のお力を借りながら努めてまいります。

今後とも宜しくご指導をお願いいたします。